

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

○（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設の整備に向けた実践的活動

- ・平成 18 年 1 月から「地域観光交流施設整備庁内連絡会議」で検討し、同年 5 月、基本構想素案をとりまとめ公表した。
- ・その後、市民からの意見を反映させる必要があることから、同素案を基に、パブリックコメント、市民ワークショップおよび関係団体・機関へのヒアリングを実施。
- ・同年 7 月には、関係団体・機関の代表及び庁内関係課職員で構成する「地域観光交流施設検討ワーキング会議」を組織、同検討ワーキング会議および庁内連絡会議で、市民や関係団体・機関からの意見・要望等への対応を協議しながら、（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設基本構想をとりまとめた。
- ・同年 12 月、基本設計業務委託簡易公募型プロポーザル（設計競技方式併用）を実施し、平成 19 年 3 月、基本設計業務委託者を決定した。6 月に基本計画を策定し、11 月に基本設計を終了し、現在実施設計作業を進めている。

【関連する事業】

（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設整備事業

○都心地区再生に向けた実践的活動

<都心地区再生プロジェクトの立ち上げ>

- ・中心市街地のうち、特に古くから行政・金融・商業等の様々な機能が集積し、市の中心部として繁栄してきた三日町、十三日町等の都心地区の再生に向け、平成 16 年 5 月、庁内 3 部署（政策推進室、商工労政課、都市政策課）により「都心地区再生プロジェクト」を立ち上げた。
- ・当プロジェクトにおいて、「賑わい拠点の創出」や「都心地区の居住」等をテーマに、都心機能の高度化について調査・検討してきたが、「都心地区再生プロジェクト事業計画書」として、次のとおり、緊急に実施する必要のある 10 の施策を取りまとめた。

- 1 全国都市再生モデル調査の実施
- 2 花小路整備の促進
- 3 三日町・十三日町モール化の検討
- 4 小規模再開発の支援・促進
- 5 まちづくり特区の検討・申請
- 6 本八戸駅通り地区の賑わい創出事業の検討・実施
- 7 TMO の設立
- 8 旧市民病院跡地の活用・周辺のみちづくり
- 9 まちなか再生市民フォーラムの開催
- 10 借上げ市営住宅の建設

<都心地区再生市民ワークショップ>

- ・このワークショップは、「都心地区再生プロジェクト」を踏まえて開催しているので、広く市民参画のもと、中心市街地・都心地区のみちづくりについてワークショップ参加者が問題点を整理した上で、対応策を検討することを目的としている。
- ・平成 16 年度は 4 回、平成 17 年度は 8 回、平成 18 年度は 6 回開催。平成 19 年度は 6 回開催した。

＜まちなか再生市民フェスタの開催＞

- ・平成 20 年 1 月「まちなか再生市民フェスタ」が開催された。
- ・本フェスタは、中心市街地再生のため平成 16 年 8 月に策定された「都心地区再生プロジェクト事業計画書」のプロジェクトの 1 つに位置付けられている「まちなか再生市民フォーラムの開催」に基づき、平成 16 年度から毎年開催されているものである。
- ・今回のフェスタでは、「八戸ポータルミュージアムを考える」をテーマに、平成 21 年度に開館予定である（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設へどのように市民が関わっていくかを考えるべく、せんだいメディアテーク副館長である佐藤泰氏を迎えて基調講演をいただき、続いて同氏および都心地区再生市民ワークショップメンバー等を交えたパネルディスカッションを行った。

【関連する事業】

本八戸駅通り地区整備事業
にぎわいストリートフェスティバル事業
長者まつりめぐ広場運営事業
大規模小売店舗立地法の特例区域の設定の要請
こみちづくり事業
会所場づくり事業
空き店舗再生事業
三八城公園整備事業
借上市営住宅整備事業
中心市街地まちなか住宅取得支援事業

○平成 17 年度 八戸市都市再生にぎわいトランジットモール社会実験

- ・平成 17 年 9 月、中心市街地の賑わい創出と公共交通機関の利便性向上を目指し、三日町・十三日町において、トランジットモールの社会実験やイベントを実施。
- ・トランジットモールの社会実験では、期間中バス、タクシー、配送車、一般車の交通規制を順次行い、イベントはにぎわいストリートフェスティバルやオープンカフェを開催した。

【関連する事業】

バス交通利用環境改善事業
にぎわいストリートフェスティバル事業（再掲）

○内丸地区（本八戸駅通り）まちづくり

- ・本八戸駅通り（都市計画道路 3・5・1 号沼館三日町線）は昭和 11 年に都市計画決定し、5 度の都市計画変更を経ているが、未着手の道路である。

- ・これまで、本八戸駅通りを中心とする内丸地区のまちづくりについては、様々な検討が行われてきたが、平成 13～15 年度の都市計画マスタープランワーキング会議の中でグループ検討を行ったことがきっかけとなり、平成 16 年度以降「本八戸駅どおりまちづくりワーキング」が発足、「都心地区再生プロジェクト」において緊急に実施する必要のある施策として位置づけ、「都心地区再生市民ワークショップ」、「内丸地区のまちづくりを考える寄り合い」等でまちづくりの検討を行っている。

【関連する事業】

本八戸駅通り地区整備事業（再掲）

三八城公園整備事業（再掲）

○八戸中心市街地まちなか巡りと会所場づくりによる活性化プロジェクト

- ・このプロジェクトは、中心市街地に設けられた地元主導による屋台風飲食店街「八戸屋台村みろく横丁」などの点的な賑わいの核を線的・面的に発展させるため、中心市街地特有の小路や建物内通路を結んだまちなか巡りルートを開拓するもの。併せて低未利用地や空き店舗等を活用し、交流と賑わいの核「会所場」として復活させ、その空間と仕組みづくりを進める。
- ・まちなか巡り・会所場づくり実験は、「にぎわいストリートフェスティバル」に合わせて実施（平成 16 年 9 月 26 日）。会所場体験コーナー（総入り込み数 493 名）、花小路パフォーマンス実験（イベント開催時の小路への入り込み数 93 名）、プレまちなか巡りツアー＋ワークショップ（参加者 12 名）、まちなか巡りルート・会所場づくり資源発掘にかかわるアンケート（回答数 69 名）。
- ・市民ワークショップでは、中心市街地の回遊性を高める、まちなか巡りルートや会所場づくりを模索する商業者、中心市街地の利用者によるワークショップを開催（平成 16 年 11 月 13 日、平成 16 年 12 月 18 日、平成 17 年 1 月 18 日、平成 17 年 2 月 5 日開催）。

【関連する事業】

会所場づくり事業（再掲）

空き店舗再生事業（再掲）

○まちなか回遊軸・花小路の整備実現化推進調査

- ・「花小路整備の促進」は、平成 16 年にまとめた「都心地区再生プロジェクト」の重点的に展開する 10 の施策の一つに位置づけられた。また、平成 16 年度に全国都市再生モデル調査を活用して実施された「八戸中心市街地まちなか巡りと会所場づくりによる活性化プロジェクト」の戦略プロジェクトのひとつとして「花小路再生プロジェクト」が位置づけられた。
- ・本調査は、中心市街地の回遊の拠点となる花小路を中心とした三日町・六日町において、空き床や空き店舗の利活用による新たな回遊の仕掛けづくりを組み入れながら、花小路再生プロジェクトの具体化を図ることを目的に実施された。

- ・三日町・六日町街区の空き床・空き店舗等の活用にかかわるアンケート調査では、対象地区の建物所有者に対し、所有する空きビルや空き床の状況、利活用意欲などを把握した（平成 17 年 12 月実施、配布数 37 票、回収数 24 票（回収率 64.9%））。
- ・三日町・六日町街区活性化方策検討会では、建物所有者を参加者とし、花小路整備のあり方、エリアマネジメントの実現化方策などを検討（平成 18 年 2 月 9 日、平成 18 年 2 月 21 日に実施）。

【関連する事業】

空き店舗再生事業（再掲）

こみちづくり事業（再掲）

○フィールドミュージアム八戸構想

- ・市内にある自然・祭り・食などの観光資源を4つのスポットミュージアムと4つのゾーンミュージアムに分け、それぞれをテーマごとのギャラリーに見立てる。それぞれのミュージアムを組み合わせることで八戸全体を「屋根のない大きな博物館」とし、「フィールドミュージアム八戸」を本市の観光の柱にし、効果的な観光 PR をしていく。

【関連する事業】

バス交通利用環境改善事業

六日町地区くらしのみちゾーン形成事業

[2] 都市計画との調和等

○八戸都市計画区域の整備、開発及び保全の方針との整合

・平成 16 年 5 月に青森県が策定した八戸都市計画区域の整備、開発及び保全の方針において、八戸広域生活・経済圏の中心都市として位置づけられる本市を中心に、各都市が相互に連携を図りながら、効率的で魅力ある都市づくりを進めていくものとし、本区域の都市づくりの目標を以下のように定めている。

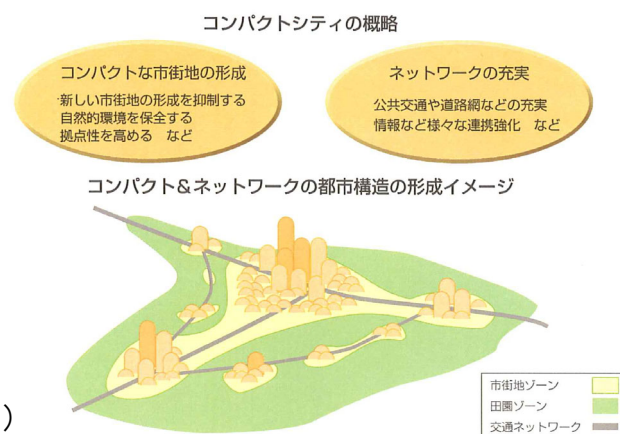
- 都市環境の整った暮らしやすい都市づくりの実現
- 生きがいのもてる都市づくりの実現
- 総合的な産業展開を行う都市づくりの実現
- 広域的なインフラを活用する都市づくりの実現

・市街地像としては、「八戸市の中心市街地での機能集積を図るとともに、八戸市の交通結節点等拠点地区や下田町、百石町と適切な機能分担を図り、かつ広域交通ネットワークで連携し、全体として一体の区域形成を目指す」ものとしている。

○第 5 次八戸市総合計画との整合

・本市では平成 19 年 3 月に第 5 次八戸市総合計画を策定し、「海と大地が響きあう北の中核都市～魅力・活力・市民力 あふれる力が次代を拓く～」を将来都市像に都市づくりを推進していくこととしている。

・この中で、全市的な土地利用の方向として「コンパクト&ネットワーク」の都市構造が掲げられている。



(再掲)

・また、将来都市像の実現に向けて、前期推進計画の 5 年において重点的に取り組むべき施策や事業を「戦略プロジェクト」としてまとめており、「2. まちの魅力創造のためのプロジェクト群」では「2-1. 中心市街地再生プロジェクト」の中で「三日町、十三日町などの通りのにぎわい再生、居住・交流の促進によるコミュニティの再生、および商業をはじめとした経済活動の活性化を図る」と方向付けている。

2. まちの魅力創造のためのプロジェクト群

2-1. 中心市街地再生プロジェクト

施策 1) 通りのにぎわい再生

施策 2) 居住・交流の促進によるコミュニティの再生

施策 3) 経済活動の活性化

[3] その他の事項

以下については、環境にやさしい都市づくりの観点から、本基本計画に位置づけられた活性化施策と連携を図り、推進するものとする。

○八戸市環境展

- ・第5次八戸市総合計画で位置づけられているもので、平成17年、18年に開催してきた。
- ・環境に関するイベントを開催することで、市民の環境意識啓発を目指す。
- ・平成19年度は県の「あおもり環境フェスティバル」と合同で、長根公園で開催した。
- ・平成20年度以降は、「健康まつり」との合同開催により、八戸市公会堂で実施する予定である。